

いわての看護

特集

東日本大震災から10年



看護の力で健康な社会を！

日本の医療を救え

#NursingNow_いま私にできること

岩手県看護協会は
看護職の皆さまを応援しています

令和3年度
岩手県看護協会会員数の動向

保	助	看	准看	計
300人	312人	6,429人	130人	7,171人

令和3年4月13日現在

新年度を迎えて



公益社団法人岩手県看護協会
会長 及川 史智子

会員の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年度をお迎えのことと存じます。

日頃より、本会の事業にご支援ご協力いただき心から感謝申し上げます。

岩手県では、昨年9月末から新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊迫した状況が続いています。看護職は不安と緊張の中、使命感をもって懸命に職務にあたり、社会から改めて看護の役割・重要性が高く評価されています。本会では保健所・軽症者宿泊療養施設の人員確保、医療機関への応援派遣調整の協力、相談窓口の設置、危険手当の支給や看護職員の休業に伴う代替職員の確保等の要望を行ってきました。

さて、東日本大震災から早くも10年が経ち、岩手県では3月11日を「東日本大震災津波を語り継ぐ日」とする条例が制定されました。これからも震災の記憶を風化させることなく、教訓を生かし災害対策に取り組んでいきたいと思います。

令和3年度は昨年度の事業を継続するとともに、2040年を見据えた看護のあり方を視野に入れて展開してまいります。また、昨今の災害の発生や新型コロナウイルス感染症の経験から、看護に係る課題への取り組みも必要と考え、以下の6項目を重点事業に掲げました。

1. 看護職の実践能力の向上・専門性の発揮とその体制整備への支援
2. 健康と療養を支える地域包括ケアの推進
3. 看護職の労働環境の整備の推進
4. 看護職の役割拡大の推進
5. 組織基盤の強化
6. 大規模災害等発生時の対応体制の整備

看護職の実践能力の向上では、看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）の活用事例の周知や保健師の人材育成、地域で働く看護職の資質向上のための研修等を充実していきます。地域包括ケアの推進については、訪問看護提供体制の強化、医療的ケア児支援人材の育成、受療中の人々の重症化予防に係る事業を行います。看護人材の確保は、少子化や現在の求人状況、2025年に向けた需給推計から、今後ますます厳しさを増すものと思われます。労働環境の整備、復職支援をはじめ若年層に看護の魅力を発信する事業を拡充し、職業選択の動機づけに繋げていきたいと考えています。また、大規模災害等発生時の体制整備として、支部との連携や災害支援ナースの育成並びに感染症対策を推進することといたします。

社会の期待に応え看護の力を発揮できるよう、専門職能団体としての役割を果たしてまいりたいと思えます。今年度も皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、新型コロナウイルス感染症の収束と会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念し、ご挨拶といたします。



令和3年度岩手県看護協会 通常総会・職能集会について

日時：6月19日(土) 9:30～11:30(9:00～開場・受付)

会場：岩手県民会館 中ホール

令和3年度通常総会は新型コロナウイルス感染防止のため、三密を避け、規模を縮小し開催します。事前参加申込みにて一般会員の会場入場を50名に調整させていただきます。

なお、5月20日以降に「いわての看護」総会号及び委任状並びに事前参加申込みについて送付いたします。会員の皆様には委任状の提出による総会出席にご協力をお願いいたします。

プログラム

9:30	開 会 物故会員への黙祷 会長挨拶 公益社団法人岩手県看護協会会長表彰・ 感謝状・永年勤続表彰贈呈 表彰者代表謝辞	報告事項 1 令和2年度事業報告 第2号議案 令和2年度決算(案)及び監査報告
9:50	議長団選出 議事録署名人選任	報告事項 2 令和3年度事業計画 報告事項 3 令和3年度資金収支予算及び収支予算
9:55	報告事項および議決事項 第1号議案 令和3年度改選役員及び推薦委員並び に令和4年度公益社団法人日本看護 協会代議員及び予備代議員の選出につ いて(案) (選挙管理委員紹介・候補者紹介・投票)	報告事項 4 令和4年度公益社団法人岩手県看護協会 通常総会開催地 11:15 選挙結果発表 令和4年度選挙管理委員任命 新役員等紹介 旧役員等への謝辞 新旧役員等代表挨拶
		11:30 閉 会

保健師・助産師職能合同集会

※総会終了後、同会場で開催します

6月19日(土) 13:30～15:30(13:00～受付) 会場：岩手県民会館 中ホール

テーマ「母子のための地域包括ケアシステムの推進～産後ケア事業の構築に向けて～」

1. 行政からの説明「本県における母子のための地域包括ケアシステムの推進について」
講師：岩手県保健福祉部子ども子育て支援室 室長 中里 裕美氏
2. 自治体の取組み
講師：奥州市健康子ども部健康増進課 親子みらい係 主任保健師 伊藤 睦氏
3. 医療機関の取組み紹介
講師：奥州市総合水沢病院 主任助産師 菅原 香代氏
4. 意見交換

看護師職能集会

※総会とは別日・別会場での開催となります

6月28日(月) 13:30～15:30(13:00～受付) 会場：岩手県看護研修センター

講演「傷つかない看護のために -医療メディエーションの活用」

講師：国立大学法人山形大学医学部 総合医学教育センター 准教授 中西 淑美氏
座長：岩手医科大学医学部 医療安全学講座 教授 肥田 圭介氏

特集

東日本大震災から10年



2012(平成24年)

6～7月
宮古・釜石・大船渡で
「災害に備える懇談会」開催



2011(平成23年)

- 3/11 東日本大震災
3/18～ 災害支援ナース派遣
県協会 —— 延べ305人
日本看護協会 — 延べ960人
7/9 「東日本大震災の体験を語る懇談会」開催



2011/9～2015/3

「被災地看護職員確保対策室」設置

2011～2017

看護職の「心のケア」研修会を各支部で開催

2012～

被災地に出向き、また、盛岡近郊に看護職確保に取り組む

2014(平成26年)

9～10月 被災地施設訪問(45か所)

2014～



希望そして伝えきれなかったもう一つの絆

中津川病院 看護師 鈴木 正

あの未曾有の災害に直面し、困難な状況に立ち向っていた多くの人達に支援看護師として関わり体験した10年目の回顧です。

ライフライン寸断で十分な治療困難化した、釜石のぞみ病院の患者が内陸への転院を余儀なくされ、スタッフはどのような思いで自衛隊の搬送で入院患者様を見送っていたのだろうか…

人員不足の中、付き添いの女性看護師と自分が同行(基本的支援)となりました。道中の車内で「この先どう成るかわかりません、けれども前に進むしかありません」この言葉の重みに頷きながら、しっかりと話を聞く(傾聴の姿勢の大切さ)、更に不安気に何度も窓の外ばかり見る患者様には、「大丈夫」と言って手を握ってあげる事が精一杯の気持ち(寄り添う気持ち)でした。

受け入れ先の内陸の基幹病院に到着の際、玄関前に既に多くのスタッフが待機していました。特殊で前例の無い状況下でも無事に転院出来た安堵感、何よりも一丸となり新たな行動が、もう一つの絆に成っていました。尚、搬送してくれた自衛官に対し一礼すると、「これが我々の職務ですから」と笑顔で答え(出会いの大切さ)ていました。

残された現場の彼らは悲しんでいる時間は無く、折れそうな気持ちでも激務に耐える姿が印象的でした。それでも、休憩室の窓に「希望」と書かれた1枚の紙には、団結で難局を乗り越え明日を信じて生きる思いが伝わりました。

今だからこそ、伝えきれなかった思いを、釜石の皆さんへ——お元気ですか、あの時は勇気をありがとうございました。

東日本大震災10年を経て看護職がつなぐこと ～被災当時から10年 地域活動に関わって～

宮古市保健福祉部健康課 田老保健センター 小野寺 由美子

あの震災から10年、長いようで、あっという間にも思います。この間にも大きな災害があり、もうたくさんと何度思ったことでしょう。

震災時の多くの素晴らしいチームから感じたことを伝えます。現地の支援者も被災し、不安の中で活動を模索しています。外部の支援者は、被災地に「とにかく来て、いてくれること」です。先の予測もつかない状況の中、「大丈夫それでいいです。」の一言で、どれだけ救われたことでしょうか。「自分たちは、支援者支援で来ています。支援者が動きやすいように支援し、元気に支援活動ができるようにしたいと考えています。何でも言ってください。」「先は長いのだから、休むことも仕事です。」などの言葉で、私たちの活動を理解してくれている安心感と信頼関係ができ、どれほど救われたことでしょうか。そして、休みながら、立ち止まり、考えるゆとりを与えていただき、その後の10年の活動を乗り越える力にもなったように思います。

2016(平成28年)

- 7月 宮古で復興支援セミナー「被災地に元気と活力を！」開催
- 11月 被災地施設訪問 (13か所)



2018(平成30年)

- 8～9月 大船渡・宮古で「被災地の看護職員研修」開催
被災地でのメンタルヘルス対策とケアについて



2021(令和3年)

東日本大震災津波を語り継ぐ日

岩手県は3月11日を「東日本大震災津波を語り継ぐ日」とする条例を制定しました。

この制定には、岩手県看護協会は請願者となっています。

東日本大震災津波から10年を迎えるにあたり、3月11日を「すべての人に関係する日」することで風化を防ぎ、あの日の悲しみと教訓を永遠に語り継いでいく」ことを目指し関係団体等とともに請願したことで、条例の制定にいたりしました。

岩手県看護協会は、震災の記憶を風化させない、教訓を伝承するとともに、災害に備えるために重点事業に「大規模災害等発生時の対応体制の整備」を掲げ、災害時の地域連携強化のためのネットワークの拡充、災害支援ナースの育成・登録の推進を進めていきます。

避難してきている住民を対象に「まちの保健室」を開催
県内病院等との災害支援ナース派遣調整合同訓練実施

Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンに参加して

常務理事 菊池 由紀

1月21日(木)「看護の日・看護週間」制定30周年、ナイチンゲール生誕200周年記念として、「看護の力で未来を創る」のテーマのもと、世界と東京そして全国の多くの会場につながり、Zoomウェビナー形式で開催されました。

◆オープニングセッションでの、Nursing Now 事務局長バーバラ・スティルウェル氏の基調講演をご紹介します。2020年は看護にとって大事な一年になるはずが、新型コロナウイルスによるパンデミックがおき、看護職無しでは医療の現場は成り立たない状況が伝えられました。看護職は経験を蓄積して信頼される看護の実践が大切と強調されました。また、2021年の「国際医療従事者年」に触れ、若いリーダーを育てていく大切さを説き、若いスタッフが働き続けられることに投資することは、コストでなく価値がある投資と表現し、次世代につながる看護の人材育成の大切さを発信していました。

◆分科会〈1:トリプル・インパクトと政策〉ではNursing Nowのきっかけとなった「トリプル・インパクト」報告書が示したSDGs17の目標から3つ【目標3 すべての人に健康と福祉を】【目標5 ジェンダー平等を実現しよう】【目標8 働きがいも経済成長も】について説明し、社会

やSDGsに看護職が貢献するためには、政策推進・政策決定に影響を及ぼす「エビデンスの蓄積と提供」の重要性を確認しました。

今回の企画から、多くの刺激を受けました。特に、これから活躍するリーダーを育てることの大切さ、エビデンスにつながる努力、看護職として健康な社会に貢献する役割を意識し、仕事をしていきたいと思います。

Nursing Now ニッポン宣言

- *健康な地域・健康な社会づくり、人々の生涯を通じた安心・安全で健康な暮らしに、これまで以上に貢献します。
- *看護職が社会のニーズを満たし、あらゆる場でその力を十分に発揮できるよう、実践から政策まで、それぞれの変革を推進するための意思決定に参画します。
- *利用可能な最善のエビデンスに基づく、よりよい意思決定に寄与するため、幅広くエビデンスの集積に取組みます。
- *これらの日本における取組み・成果を世界と共有し、世界的な目標であるSDGsの達成、世界の人々の健康向上に尽力します。

WLB推進フォローアップ・ワークショップを開催して

ナースセンター事業部長 森 てる子

令和3年1月30日(土) 中小規模病院を対象としたWLB推進ワークショップを参加施設5病院及び当看護協会WLB推進委員でリモート開催しました。

3年間取り組んだ岩泉病院からは、WLBワーキンググループ中心に活動している様子を、WLB通信の発行や「ありがとうカード」で可視化した成果発表がありました。WLBは「自分事」と捉え自律が重要とまとめていました。

昭和病院では、教育キャリアラダーの作成や、岩手県医療勤務環境改善支援事業補助金を活用したスポットチェックモニター、ベッドパンウォッシャーの導入で看護業務の効率化や看護の専門性を高めることができたとの報告がありました。

2年目のいわてリハビリテーションセンターでは、組織内で共有するための「わ(W)ら(L)ば(B)通信」を隔月発行しています。また、腰痛予防・肩こり予防のためにシルバーリハビリ体操をYouTubeで配信、さらに医療勤務環境改善支援事業補助金で、床走行式リフト・マッスルスーツを導入し活用、評価に向けていました。

また、新規参加の岩手県立東和病院と奥州市総合水沢病院は講演や3病院の取り組み報告を聞き、今後の進め方などを確認することが出来たようでした。

最後に講師の小村由香氏(日看協労働政策部看護労働課長)から、WLB推進事業の効果として、「質の高い看護ケアの提供と仕事への誇りが得られる」と結びの言葉がありました。多くの施設の取り組みをお待ちしています。



管理期保健師研修会を開催して

令和2年12月9日と令和3年1月7日の2日間にわたり、岩手県委託の管理期保健師研修会を実施しました。本研修は、平成31年に改訂された「岩手県保健師人材育成指針」に基づき、保健活動と地域包括ケアを推進する保健師の人材育成を目的に、初めての開催となりました。対象は①県内自治体に勤務し、管理職業務を担う保健師 ②県内自治体に勤務し、管理職を補佐する業務を担う保健師（専門的能力に係るキャリアレベル A-4～A-5 及び管理職保健師に向けた能力に係るキャリアラダー B-1～B-4）で、12名の参加でした。

	12月9日	1月7日
テーマ	健康危機管理と管理期保健師の役割	管理者に必要な機能と能力
講師	岩手県保健福祉部健康国保課 主任主査 三浦紀恵氏 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 上席主任研究官 奥田博子氏	岩手県県央保健所 所長 岩手県保健所長会 会長 田名場善明氏 横浜市健康福祉局 健康推進担当部長 嘉代佐知子氏
ファシリテーター	岩手県看護協会 副会長 奥寺 三枝子、常務理事 菊池 由紀	

一日目は「有事に求められる管理期の役割と平常時の保健活動」、二日目は「地域の課題と人材育成上の課題の明確化と共有」をテーマにグループワークを行い、意見交換をすることで知識が広がり、さらに学びが深められました。受講者からは、「県内の市町村及び保健所に勤務する管理期にある保健師として、地域保健活動を担うリーダーの役割を認識し、地域において看護管理業務を実施するために必要な知識を学んだ」との感想があり、受講後は平常時から災害に備えた取り組みの実践や、人材育成計画策定について検討を始める等、研修の学びを実践に活かしていました。受講された皆様をはじめ、講師、ファシリテーター及び中堅保健師研修事業のコンサルタントの方々のご協力に感謝いたします。

（研修担当 教育部 菊池田鶴子）



看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）について

岩手県看護協会では令和2年度から教育計画に看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）と連動した研修を組み入れました。このことにより看護者自身の看護実践段階と対比させ研修を選択できるようになりました。

「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」は、あらゆる場の看護職に共通の看護実践能力指標であり看護職の責務を示した看護業務基準との整合性が図られています。また、JNAラダーという全国標準の仕組みで自身のレベルを示すことで、自身が積み上げてきた能力や経験（自分自身のキャリア）を、今

後働く場が変わった際にも、周囲の方々に理解していただくことにつながります。

日本看護協会では、「活用のための手引き」として、2016年5月に「1. 開発の経緯」、11月に「2. 導入・活用編」、17年9月に「3. 学習内容編」、18年3月に「4. 施設における活用例編」を公表しています。

まだ導入していない施設では導入を、またすでに導入されている施設では人事考課の連動、ラダーによる評価、ラダーを活用した研修など更なる活用につなげることをお勧めします。

「医療的ケア児支援者育成業務」研修を実施して

開催日：12月4日（金）、11日（金）
 会場：岩手県立療育センター
 講師：岩手医科大学医学部
 障がい児者医療学講座
 特命教授 亀井 淳 氏
 岩手県立療育センター
 重症心身障害児看護師
 藤倉 理恵 氏、川村 貴子 氏

岩手県の委託を受け、「医療的ケア児支援者育成業務」研修会を実施しました。県内の訪問看護事業所において、成人と異なる小児の障がい特性等への対応に重点を置き、講義と実技演習を実施するとともに、地域における支援体制の充実を図ることなどを目的としています。

小児医療的ケアを提供している、また、今後小児医療的ケアを提供する予定がある県内の訪問看護事業所、障がい福祉サービス事業所の看護職を対象に1回目3名、2回目9名の参加がありました。

内容 小児の医療的ケアを実施するうえで、頻度の高い5つの特定行為

- ①口腔内の喀痰吸引
- ②鼻腔内の喀痰吸引
- ③気管カニューレ内部の喀痰吸引
- ④胃瘻又は腸瘻による経管栄養
- ⑤経鼻経管栄養

受講者からは、「医療的ケア児をケアする看護師の役割を再確認することができた」「講義は、動画を用いて理解しやすく現場にあった内容を聞くことができ大変勉強になった」「講義、実技を学ぶことで充実したケアを提供していきたい」「医療的ケア児を現在は支援していないが、支援する機会ができればケアを提供していきたい」等の感想が聞かれました。

障がいを持っている子どもや家族が住み慣れた地域で、安全に安心して暮らしていけるよう支援する事業所が増えることを期待しています。

（担当者 新村 節子）



会員の皆さまへ

会員の皆様に事業の周知並びに加入促進にご尽力いただき、令和2年度の会員数は7,539名と前年度より71名増加しました。各施設での働きかけをはじめ、支部での施設訪問や未加入施設への情報提供、非会員への声かけに感謝申し上げます。

会員の増加は専門職能団体として組織基盤の強化につながります。令和3年度も引き続きご協力をお願い申し上げますとともに、新入職者の加入もお待ちしております。



令和2年度認定看護師活動促進研修会

令和3年2月9日(火) Zoomでの開催 受講者37名
 テーマ：アンガーマネジメント
 講師：横浜市立大学医学部看護学科 田辺有理子氏

***** **受講者から** *****

訪問看護ステーション なかつがわ

緩和ケア認定看護師 佐藤 美佳子

「アンガーマネジメント」は、認定看護師教育課程受講中、最も興味を抱いたテーマであり、当時は理不尽な怒りには必ず背景があることを意識すること、怒りと出会った時の自己の対処傾向を知り、付き合うことを学びました。今回、更に怒りの根源となっていることが、「自分の価値観と相手に求める期待値とのギャップが怒りになっている」ということを学び、非常に心が楽になりました。日頃多くの場面で怒りの感情を抱く場面に遭遇します。その際、相手に求めているものは何なのかを分析し、その感情を相手に伝えてみることで、今、自分ができることやいい方法を共に考えていけるように対処していきたいと思いました。

盛岡赤十字病院

認知症看護認定看護師 川原 純子

怒りの感情というとマイナスのイメージですが、怒り=悪ではありません。怒りは、自分の価値観から外れた状況に対峙した際に生じる感情です。なので、自分の価値観を無視して我慢すればいいというものでもありません。「アンガーマネジメント」とは、不要な怒りに振り回されず必要なときに上手に怒りを表現できる、自分の感情とそれに伴う言動に責任をもつ、ということであると学びました。

今回は怒りの感情についての研修でしたが、アサーティブにスマートに自分の感情をマネジメントすることができるように自分を知りながら人間力を高めていければと思った研修でした。

岩手県災害支援ナース派遣調整合同訓練を実施して

岩手県災害支援ネットワークシステムとは、日本看護協会災害対策本部や岩手県災害対策本部、県内の被災地会員施設等からの要請により、当協会へ登録している災害支援ナースを派遣調整した上で、県内・外の被災地へ派遣するものです。災害時速やかに機能できるよう訓練を実施しています。

令和2年度訓練は令和3年1月25日に次の内容で実施しました。

災害：釜石に直下型地震発生

被災：独立行政法人国立病院機構釜石病院、岩手県立釜石病院

支援：北上済生会病院、岩手県立南光病院、岩手県立大船渡病院

訓練当日、参加施設と被災状況、支援ナース派遣調整の連絡をFAXやメールで行いましたが、被災病院と支援病院のニーズのマッチングと、希望する支援ナースの数を確保すること等に課題がありました。災害支援マニュアルや災害支援ナースの周知など今回得られた課題を勘案し、今後も訓練を実施いたしますのでご協力をお願いいたします。
 (防災・災害看護委員長 高橋 健)



岩手県看護協会の災害支援マニュアルを令和3年3月に改訂し、各会員施設宛て送付いたしました。お目通しいただき、ご活用くださいますようお願いいたします。主な改訂内容は下記のとおりです。

- 岩手県内での災害発生時における県外からの災害支援ナース受け入れ手順の追加
- 災害支援ナースの任期を1年間から、登録年度から2年間に変更

INFORMATION

教育部から

① 令和3年度教育計画について

研修コースから

- 申込期間が変更になりました。4・5月開催分以外、開催月の2か月前の11日～17日です。
- 看護実習指導者講習会はeラーニングを取り入れました。eラーニング後に行う集合研修は16日間です。詳しくは教育計画を参照してください。特定分野は従来通り集合研修です。
- No.44現場の困りごとから始める問題解決の考え方～PDPフレームワークの活用～は、問題解決のフレームワークを活用し看護職が現場で出会う「真の困りごと」に気づき、その原因や解決策の洗い出しを行います。認定看護管理者教育課程ファーストレベル受講を考えている方には受講していただきたい研修です。

岩手県看護研究学会

- テーマ：地域でつなぐ看護の可能性
～ダイアログの実践を通して～
開催日：令和3年10月30日(土)
特別講演テーマ：ケアとしての対話実践
特別講演講師：筑波大学医学医療系
社会精神保健学
教授 齋藤 環 氏
- 演題は昨年度に引き続き実践報告も発表できます。
- 演題及び学会参加には多くの皆様の申し込みをお待ちしております。

研修会の受講に際して

- 研修会は新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催します。皆様のご協力をお願いいたします。
- 研修会の変更やお知らせはホームページに掲載しますので随時参照してください。

② 日本看護協会 研修番号112 医療安全管理者養成研修について

- 研修時間は40時間（オンデマンド：35時間、集合研修：5時間）です。5時間の集合研修は岩手県看護協会では10月27日(水)開催です。詳しくは日本看護協会ホームページをご覧ください。

③ 研修の日程変更について

- 教育計画No.18身体拘束
【旧】6月17日(木)
【新】5月19日(水)

ナースセンターから

★「看護の日・看護週間」実施について

①「看護の日」記念行事

令和3年5月8日(土) 13:30～15:30
アイーナ 7階 小田島組☆ほ～る
参加対象：県内中学生・高校生 100名先着順
主な内容：看護の魅力発信
《トークショー》 キラリ！看護の仕事
看護職3名とIBC岩手放送アナウンサー
《講演》
看護のプロフェッショナルからのメッセージ

②「看護週間」

令和3年5月9日(日)～15日(土)
・ふれあい看護体験は実施しません
・「看護の出前授業」は県内各地にて実施します
※各地区の皆様のご協力をお願いいたします

★看護職再就業支援研修会開催

開催日時▶令和3年6月14日(月)～16日(水)
会 場▶岩手県看護研修センター内
(担当病院 岩手県立中央病院)
申込〆切▶5月20日(木)

★再就業支援研修 技術演習

開催日時▶令和3年7月15日(木)・29日(木)
9月2日(木)・16日(木)
11月4日(木)・18日(木)
内 容▶学習用DVD視聴、採血/吸引演習
会 場▶岩手県看護研修センター内

★訪問看護研修開催

【基礎】
令和3年6月17日(木)～8月19日(木)
うち11日間(実習2日含)
申込〆切/5月17日(月)

【専門】

①令和3年9月2日(木)
② 9月8日(水)
申込〆切/7月20日(火)

【管理】

①令和3年9月7日(火)
② 10月13日(水)
③ 10月27日(水)
申込〆切/7月20日(火)

★進学セミナー

令和3年8月2日(月) 盛岡会場
令和3年8月4日(水) 二戸会場
令和3年8月6日(金) 釜石会場

★WLB推進事業

令和3年度医療従事者インデックス調査参加募集中!! 5月10日(月)〆切

ご存じですか！看護職賠償責任保険制度

看護職の皆さん、加入をお勧めします。

2001年に日本看護協会が創設した「看護職賠償責任保険制度」は、日本看護協会会員である看護職が事故の当事者になった場合、サポートしエンパワメントする制度です。もちろん医療事故が発生した場合にとどまらず、加入者の相談・対応支援や事故防止の諸策を講ずるために必要な情報提供など独自のサポート機能があります。

令和元年7月からは「ハラスメント相談窓口」を開設しています。2017年(平成29年)の日本看護協会「看護職員実態調査」によると回答者の半数が、職場で暴力・ハラスメントを受けた経験があると答えています。看護職は職業上、職場の暴力やストレスにさらされやすい存在であり組織的に看護職を守る対策が必要ですが、加入者個々が相談できる窓口です。

また、「看護職を取り巻くリスクと保険加入の必要性について」医療・介護事故の事故事例から看護師の法的責任や安心のサポート体制を学ぶ研修なども実施しています。

★掛け金：2,650円（保証期間1年間）

★看護職賠償責任保険制度ホームページをご覧ください。

看護職賠償責任保険制度 研修会を開催します

- 期 日** 令和3年5月22日(土)
13:30～15:45
- 会 場** 岩手県看護研修センター
- 対 象** 訪問看護事業所
介護施設等などの看護職
- 内 容** DVD 上映
テーマ「訪問看護事業所・介護施設等における安全対策」

詳細は当協会ホームページをご覧ください

職員紹介



教育部 佐々木 陽子

はじめまして。4月から教育部で勤務させていただく事になりました佐々木陽子と申します。

病院勤務中は、たくさんの研修に参加させていただきました。今後は、会員の皆様のお役に立てるよう、研修の企画・運営に一生懸命取り組んで参りたいと思っております。よろしくお願いたします。



ナースセンター事業部
種市 幸子

4月からナースセンター事業部に勤務させていただいています。これからは学びながらではありま

すが、未就業の看護職の方々や、在宅医療に携わる看護職の方々の力になれるように努力していきたいと思っております。

氏名(改姓)・住所・勤務先など変更した方は会員情報変更手続きが必要です!

会員情報
変更手続き
について

現在の登録内容を確認の上、今すぐ手続きをお願いします。
詳しくは、当会までお問い合わせください。(TEL:019-662-8213)

登録内容の確認 / 会員情報変更手続き

会員専用WEBサイト「キャリアナース」をご利用ください。
URL <https://kaiin.nurse.or.jp/members/JNG000101>

変更手続きはお早目に!

※施設担当者様 ▶ 「会員情報及び施設情報変更手続きについて」をご覧ください。
(当会ホームページ「入会のご案内 / キャリナース」からダウンロード可)

会員専用ページ
キャリアナース



先輩の部 vol.59



二戸市
総合福祉センター
山本 マキ子

軽米町保健師 中里さんからバトンを受け取った二戸市総合福祉センターの山本マキ子です。中里さんから、私にバトンをというお話があった時には驚きました。昨年度、二戸で初めて「いいお産の日 in にのへ」を開催した際に一緒に活動させて頂き、そのご縁で私に繋いでくださったのだなと思っております。

私は平成30年3月で県立病院を退職し、現在は、昨年8月開設した「子育て世代包括支援センター」で助産師として勤務しております。妊娠届時から、妊娠・出産に関する不安や疑問、産後の育児の不安に電話や来所・訪問を通じて親子に関わり、また健診の度に親子が共に成長する過程を見ることが出来ます。病院勤務時には味わえなかった助産師としての喜びを日々実感することが、地域で働く助産師としての醍醐味だと思っております。遠い昔に学習した知識では追いつかず、さまざまな研修に参加し、職場の保健師や栄養士にも色々教えて頂き日々が学びの場となっております。

私は、温泉めぐりが好きで、友人等と度々おしゃべり大会と称し出かけていました。今はコロナ禍で自粛しています。落ち着いたらいつでも行けるよう準備万端整えコロナの終息を祈り、その時を待ちたいと思います。

すずとも vol.152



吉田 百

県立遠野病院の石亀桂子さんからバトンを頂いた花巻市の吉田です。20代の頃、県内の球技大会で、仲間と共に週末のたびにバレーのユニフォームを着ていたことを懐かしく思い出しました。岩手にUターンして丸24年経ちました。

昨年は、茨城の母校が地元の大学の看護学部へ吸収された為、大々的に同窓会の閉会式が行われる予定でした。全国に散らばった仲間たち、先輩方や、恩師の先生方との再会を楽しみにしていましたが、コロナの感染拡大に伴って直前になり中止となってしまいました。友人達とは、いつか必ずみんなで温泉に集合しようと誓いあっています。

県立病院で勤務し23年、沢山の出会いがありました。家族の状況の変化もあり、昨年退職し最寄りの産婦人科医院で勤務しております。岩手県の出産を取り巻く環境も、この20年大きな変遷がありました。この先20年も、また大きく変わっていくのかなと思います。自分自身の人生と、時代の流れと、どのように変化していくのか未知の世界ですが、地域の女性達が安心して産前産後を過ごすことができるにはどうしたらいいのか自分なりに、日々模索していくこととなりそうです。

すずとも vol.153



岩手医科大学附属病院
長澤 昌子

岩手県立大学の高屋敷さんより繋いでいただきました、岩手医科大学附属病院の長澤昌子と申します。高屋敷さんとは、尊敬する石垣靖子先生が企画された米国研修で出会って以来のご縁です。いつも熱く語り合ってしまうので、(今はもっぱらオンラインですが) ついついお酒が進んでしまう楽しい時間です。

私は、高度看護研修センターという部署で、2012年より緩和ケア認定看護師教育課程を担当しております。これまでに県内の修了生は37名、全体では134名となりました。北海道や岡山県など遠方からも岩手に緩和ケアを学びに来る仲間がいて、「岩手は第2の故郷」と言ってくれるのは本当に嬉しいです。毎年フォローアップ研修などで再会できるのを楽しみにしておりましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染対策によりオンライン研修にチャレンジしました。最初は不安もありましたが、移動する負担もなく集中して参加できるメリットも感じる事ができ楽しんでます。2021年4月からは特定行為研修を組み込んだ教育課程となります。今は、10期生と学べることを楽しみに準備しています。

岩手県看護協会の
ホームページをご存知ですか？



ホットな情報を掲載しております。どうぞ開けてみてください。

<http://www.iwate-kango.or.jp>

編集後記

vol.135は東日本大震災当時の振り返りを特集にしました。震災の記憶を風化させず体験から学び活かしていきたいものです。

「すずらんメール」は一旦休止といたします。つないでいただいた364名の皆様、ありがとうございました。

